

放射線作業者の被ばくの一元管理



日本学術会議主催
公開シンポジウム

2011年1月25日(火) 13:00~16:30

日本学術会議講堂 (東京都港区六本木7-22-34 乃木坂駅から徒歩1分)

主催：日本学術会議 基礎医学委員会・総合工学委員会合同
放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会

放射線作業者の被ばくの一元的な管理は、昭和40年代に原子力委員会等から提言されて50年近く経つにもかかわらず、未だに実現していない。このため現在の日本では、「放射線作業者の線量限度が遵守されているか」という、放射線防護上の基本的なことすら国として把握できていない。日本学術会議では、このような被ばく管理の本質的な課題を解決すべく、放射線作業者の被ばくの一元管理についての提言を公表した。日本の放射線防護のあり方、今後の展開について議論し、海外の状況も踏まえつつ、課題解決の糸口を探る。

13:00 - 13:05 開会の辞 柴田徳思 連携会員 日本原子力研究開発機構客員研究員
放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会委員長

13:05 - 13:10 開会挨拶 唐木英明 日本学術会議副会長 第二部会員

13:15 - 14:45 講演 座長 草間朋子 連携会員 大分県立看護科学大学長

1. 日本学術会議提言「放射線作業者の被ばくの一元管理について」の説明
柴田徳思
2. 医療従事者の被ばく管理の現状
井上登美夫 連携会員 横浜市立大学大学院医学研究科教授
3. 医療領域における被ばく管理 - アンケート結果から
中村 豊 (独) 国立病院機構相模原病院臨床研究センター研究員
4. 大型共同利用施設における被ばく管理の現状
榎本和義 高エネルギー加速器研究機構放射線科学センター教授
5. 日本における線量登録の経験 - 中央登録センターの立場から
久芳道義 (財) 放射線影響協会常務理事
6. 放射線作業者の個人線量の測定とその結果の取扱い - 個人線量測定機関協議会の立場から
壽藤紀道 (株) 千代田テクノル大洗研究所主席研究員
7. ICRP 及び UNSCEAR 対応の観点から
丹羽太貴 連携会員 バイオメテックス(株) 代表取締役社長
8. 海外の線量一元化の現状
吉澤道夫 (独) 日本原子力研究開発機構放射線管理部放射線計測技術課長
9. 作業者の一元管理における医療被ばくの取扱い
甲斐倫明 大分県立看護科学大学人間科学講座環境保健学研究室教授

15:00 - 16:25 討論 司会 柴田徳思
「放射線作業者の被ばくの一元管理に関する今後の進め方について」

16:25 - 16:30 閉会の辞 井上登美夫

参加費無料・事前申し込み不要

問い合わせ先：柴田徳思 (日本原子力研究開発機構客員研究員 TEL029-282-5021)